

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	脳神経科学領域 精神・神経分子科学教育研究分野 氏名 橋本 浩二郎
指導教授氏名	中村 和彦
論文審査担当者	主 査 加藤博之 副 査 佐々木賀広 副 査 福田眞作
<p>(論文題目) Parental bonding and attitudes toward suicide among medical college students in Japan. (医学生における親子の結びつきと自殺への態度との関連について)</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>本研究は、医学生における親子の結びつきと自殺に対する態度との関連性について調査したものである。書面で同意の得られた大学医学部の5年生226名(男116名、女44名;平均年齢25.2±4.0歳)のうち全項目へ回答した160名(70.8%)を解析対象とした。評価尺度は、親子の結びつきについてはParental Bonding Instrument (PBI)を、“自殺への態度”へはAttitudes Toward Suicide questionnaire (ATTS)を用いて測定を実施した。PBIについては、父と母双方の養育態度について養護因子と過保護因子の下位尺度を用い、ATTSについてもKodakaらの6因子モデルに基づいた下位項目(①自殺への容認(自殺への権利をもっていると思うこと)、②自殺の一般性(自殺を一般的なものと捉えること)、③自殺表明への解釈(単なる脅しとしての自殺表現)、④自殺の非正当性(不当な行動)、⑤予防・援助可能性、⑥衝動性)を使用した。統計解析では、ATTSの各下位尺度を従属変数として、年齢、性別、父母双方の養護因子と過保護因子を独立変数として重回帰分析を実施した。結果として、ATTSでは88.8%が誰もが自殺する可能性があり、86.3%が自殺は防ぐことができると回答した。Pearsonの相関分析で、PBI scoreとATTS scoreとの間で、①父からの養護は、父からの保護、母からの養護、母からの保護、自殺への容認に、②父からの保護は、母からの養護、母からの保護に、③母からの養護は、母からの保護、自殺への容認、自殺の一般性に、④母からの保護は、自殺への容認に、⑤自殺への容認は、自殺の一般性、自殺の非正当性、予防・援助可能性に、⑥自殺の非正当性は、衝動性とに、各々相関があった。PBI scoreとATTS 下位項目との多重回帰分析では、母からの養護と自殺への容認では有意な関連性はなかった。母からの養護は自殺の一般性との相関を示した。すなわち多重回帰分析の結果から、母親からの養護因子の高い対象者は、自殺は一般的なものと捉え、人は自殺する権利は持っていないと捉える傾向にあった。</p> <p>本研究は医学生自身の親子の結びつきが“自殺への態度”と関連することを明らかにした初の研究である。医療従事者における“自殺への態度”教育を構築する上で重要な示唆を与えるものと思われる、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	Neuropsychiatr Dis Treat 2014, 10:2015-20